本科　１１月１３日（木）

第４２・４３回講座　「地震と津波の科学」

講師　宍倉　正展氏（産業技術総合研究所　活断層・火山研究部門グループ長　博士）
日時　１１月１３日（木）１０：００～１５：００
場所　塚本ビル　会議室

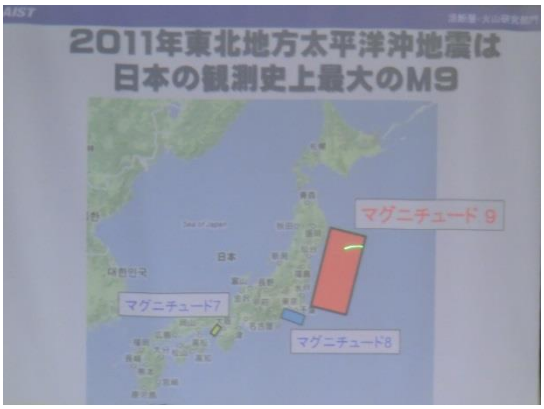
テーマは、過去の様々な記録を読み解き、起こりうる地震や津波を考える。

今年度から新たに始まった宍倉正展氏による「地震と津波の科学」の講座が行われた。宍倉講師は過去の地震や津波に関する地形や地質の調査研究がご専門で、「次の巨大地震はどこか！」などの著書も出されている。

講義は、まず地震とは何か、地震のタイプ、マグニチュードの大きさなどの基礎知識について始まり、続いて地震の予測について、「いつ」「どこで」「どれくらい」の３つの要素のうち「いつ」の予測が最も難しいことが説明された。そして過去の地震・津波を古文書や地形・地質調査で探る古地震研究の内容が紹介された。宍倉講師が永年にわたり調査研究された貞観地震（869 年）の津波堆積物の分布からは、東日本大震災の津波浸水域は予測できていたが、その発表が震災発生の翌月に予定されていたとの話は誠に残念であった。明日起きるか 30 年後に起こるかを予測するのは難しいが、どこで、どれくらいの地震や津波が起こるかを予測する古地震研究の有効性が認められ、更に発展することを期待したい。

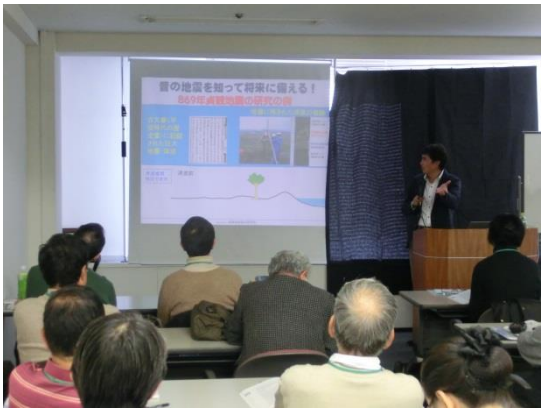
房総半島においても、過去の地震や津波の調査、そしてＧＰＳによる観測から地震エネルギーがたまっているようであり、地震の発生が予測されているが、地震や津波についてちゃんとした知識を持って備えたいものである。

千葉県大多喜町ご出身の宍倉講師による講座は、房総の地震に関する内容を含め、大変興味深い講座であった。



まず地震の基礎知識からはじまり、東日本大震災のマグニチュードＭ９のエネルギーの大きさを再認識させられた。

クイズ形式で、地震速報から得られる情報をもとに、津波の発生する目安について確認された。



「昔の地震を知って将来に備える！」貞観地震（869）に関する古文書や地質調査の研究が紹介されました。

宍倉講師が宮城県で津波堆積物の掘削調査をされ、復元された津波浸水域は 2011 年の浸水域とほぼ一致していました。

石巻で観察された津波堆積物から、貞観タイプの巨大津波が 500 - 800 年間隔でくり返していることが報告されていた。

過去に房総半島を襲った巨大地震により隆起した館山市の見物海岸の海岸段丘が紹介されました。

講義後の質問では、活断層について、地震の縦波と横波の違い、地震の発生確率等々、地震への関心度が覗えました。